すべての人がたのしめる「共遊球技」
～「竹内啓也さん」の取組～

竹内啓也さんは、神奈川県社会福祉事業団で、地域福祉施設、老人ホームなどの生活指導員として務め、2000年3月に退職しました。その後、「障害がある人もない人も、共に遊べるスポーツの開発と普及」を掲げて「統合スポーツ共遊球技研究所」を設立して現在に至っています。

視覚障害のある高齢者福祉施設に勤めている時に、「目が不自由でも人とふれあいながら楽しめるものがあれば」と試行を重ね、鈴入りのバレーボールを棒で転がしピンを倒す「スティック・ボウリング」を開発したのが「共遊球技」の原点となっています。重度の障害をかかえていても「全ての人ができて楽しめるスポーツ」をめざして、開発に取り組んでいます。

坂の上から球を転がすだけの球技ですが、健常者が常に勝つスポーツではないものを作り上げました。このように竹内さんは、誰でも参加できるボールゲームを研究開発しています。自身のホームページには、各施設・イベントで実際に実践したゲームを30ほど紹介しています。

竹内さんは、「声がかかればどこへでも教えに行きます。プレーしている人の笑顔を見るのが喜びです」という気持ちを持ち続け、笑顔をつくる仕事をしています。

話していても、面白く表情豊かです。どんなことにも積極的に関わっていこうとする気持ちがあり、中原区民交流センターなかはらっぱ「がんばる中原人」登録第1号者となっています。

ユーモアのある実況放送でまわりを明るく

竹内さんは、会場では常にユーモアのある実況放送を心がけ、全ての方が今の状況を把握できるように進行しています。話も楽しく、競技者も参観者もいつの間にか、放送にひきこまれてしまいます。一緒になって応援し自然と豊かな表情となり、笑顔の輪が広がっていきます。

ゲーム開発においては、小学生のお孫さん（4年の兄、1年の妹）の協力もあります。右図のように球を重ねて同じ山を3つ作るアイデアや「こうするともっと楽しくなるよ」という要望も参考にしています。

町田市の療育園では、保護者のみなさんが、毎月ボランティアとして来てくれる竹内さんに、広報誌へお礼の記事を書いてくれたり、感謝状にその場にいた20数名の保護者が連名で名前を書いてくれたりした時は、とても嬉しかったそうです。また、去年11月に行われた「なかはら福祉健康まつり」は、あいにくの雨でした。参加した保育園の年長さんが、「雨で外があまりみられなかったけれど、ボウリングが楽しかった」と、竹内さんのコーナーが楽しかったことを、インタビューで答えていました。

今後、ゲームの完成度あげて、今まで開発したゲームを本にまとめて発行し、「共遊球技」の普及に努めたいと抱負を語ってくれました。

■問合せ　竹内啓也　TEL 044-733-0732